

# 大牟田市立天領小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこく、たくましい子どもの育成」の実現に向け、大きく二つの柱を立て、ESDを推進している。

一つは、大牟田市教育委員会と東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの海洋教育推進協定の締結を受け、本年度より「みなと小・天の原小・駿馬小・天領小の4校が連携した海洋教育」を通じたESDを展開している。

もう一つは、体育科の研究を長年続けてきたことを生かして、体育科、生活科・総合的な学習の時間、道徳等を中心に、人々・社会とかかわる課題解決的な活動を重視し、「オリンピック・パラリンピック」を通じたESDを展開している。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

◇海洋教育の概念「海に親しみ、海を知り・海を守り・海を活用する」の学習を段階的・組織的に展開するための年間活動計画を立案

3年(親)	干潟観察会→調べ学習(海の生きもの)→調べたことの発信(「海まつり」開催)
4年(知)	カヌー体験教室→調べ学習(河口域の生き物・環境)→環境保全のための発信(ポスター作成・貼付, チラシ作成・配布)
5・6年(守・活)	三池港の歴史・役割→貿易港としての三池港→調べたことの発信(三池港の魅力新聞)→三池港を活かしたまちづくりプラン作成→自分たちの考えの発信(海洋教育子どもサミット・全国海洋教育サミット)

◇オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・オリンピック・パラリンピックの歴史や精神について学ぶ
- ・教科学習指導におけるオリンピック・パラリンピックを生かした教材で学ぶ
- ・競技者とのふれあいを通してその精神を学ぶ

そのために、総合的な学習の時間を中心に、体育科、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を策定

## 3 特徴的な活動事例

【4年 海の時間「めざせ きれいな大牟田市」

4年生は、駿馬地区公民館前の諏訪川で、「カヌー体験教室」を行いました。身近な川での楽しい体験の中、「水の透明度が高くない。」「一見きれいそうに見えるがゴミが浮いている。」などの気付きをもとに、校区を流れる諏訪川河口域の生き物調査やゴミ拾い活動を行った。調べ学習を進めていく中で「今よりもっと諏訪川



河口域生き物調査の様子

をきれいにしたい。生き物が安心して住める川や海にしたい。自分たちにできることはないか。」と考え、川や海に入るゴミを減らすことを呼びかけるポスターを作成しました。作成したポスターを校内に掲示することはもちろん、近隣のストアなどに出向き店内掲示をお願いするなどして、自分たちが考えたことを発信する活動に積極的に取り組んでいた。



お店へのポスター掲示お願い

### 【5, 6年生 総合「パラリンピアンと交流しよう!」】



5, 6年生総合的な学習の時間で、シドニーパラリンピックに、車椅子バスケットボールキャプテンとして出場された根木慎志選手をお迎えして、交流活動を行った。



根木選手の体験談を聞く様子

前半では、根木選手の体験をもとにしたお話を伺った。高校生の時に車の事故で下半身が不自由になり、失意のどん底に落ちたが、そんなときに車椅子バスケットボールに出会い、活動することになったこと。なかなか上手にならなかったが、あるときを契機に上達していったことなどを伺った。その中で、つらいことがあっても前向きに考えて行動することの大切さ、あきらめずに最後まで頑張ることの大切さなどを教えていただいた。



根木選手とのF・S対決

後半では、競技用車椅子に乗ってのフリースロー対決を行い、楽しい体験をすることができた。

なかなか出会う機会が少ない一流選手との交流活動を通して、子どもたちは、崇高な生き方にふれ有意義な1日を過ごすことができた。

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・海洋教育においては、各学年での体験活動や調べ学習を通して、海の生きものの多様性、人の生活と生物・自然環境の関係、地域に存在する三池港の役割と人の生活との関係、未来のまちづくりにおける開発と保全のバランスの重要性などの学習を深めることができた。
- ・それぞれの学年が、Zoomを活用して他校との意見交流活動をすることができ、コロナ禍の中であっても自分たちの考えに付加・修正をし、考えを広げたり深めたりすることができた。
- ・本物のアスリートとの出会いは、子どもたちにアスリートの生き様と自分たちの生き方を重ね合わせて考える機会を与えてくれた。「自分の中に弱さはあるが、アスリートに負けないよう頑張りたい」という考えに至った子どもも多く、笑顔で前向きに生活できる児童が増えている。

### ○課題

- ・海洋教育に関して、カリキュラムを尊重しながら学習の展開をしていくのは至極当然であるが、子どもの思いを大切にしたい探究的な学習展開を進めていく必要がある。
- ・自分の思いや考えを、どんな場面でも臨機応変に自分の言葉で表現・発信することができる力の育成を図っていく必要がある。